

パリ白夜祭への架け橋——現代アートと過ごす夜
京都コンサートホール×ニュー・ブランシュ KYOTO 2021

展 望 HORIZON

“終わり”から始まる世界を展望する



佐藤 響「チェロ」



山本 梓「クラリネット」



松岡井 菜「ヴァイオリン」



砂原 悟「ピアノ」

PROGRAM

メシアン: 世の終わりのための四重奏曲

Olivier MESSIAEN: Quatuor pour la Fin du Temps

2021.10.1 [金]
19:00 開演予定
18:30 開場 / 20:00 終演予定

京都コンサートホール 1階エントランスホール



京都コンサートホール
KYOTO CONCERT HALL

事前申込制*

入場
無料

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前申込制による入場制限を設けた上で開催します(定員50名)。

[申込方法] 申込フォーム(ホームページ)、FAXまたはホール窓口 [申込期間] 9月1日(水)～9月12日(日)

[FAXでお申込みのお客様]「お名前・年代・郵便番号・住所・電話番号・メールアドレス・同伴者様のお名前と

電話番号」を用紙にご記入いただき、FAX(075-711-2955)で送信してください。なお、送信の際は番号をよく

ご確認の上、おかけ間違いのないようご注意ください。

※1度に1組2名様までお申込みいただけます。複数回のお申込みは無効となりますのでご注意ください。※お申込み多数となった場合は、厳正なる
抽選を行い、結果は当選通知を持ってかえさせていただきます。なお、落選の場合のご連絡はいたしませんので、あらかじめご了承ください。当選通知
は9月中旬を予定しております。※未就学児のご入場はご遠慮ください。



申込フォーム

【お問合せ】 京都コンサートホール 事業企画課

TEL 075-707-6430 (平日 10:00～17:00)

第1・第3月曜日休館(休日の場合は翌平日) / 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26

<https://www.kyotoconcerthall.org>

主催: 京都コンサートホール(公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団) / 京都市
協力: 株式会社旭堂楽器店

HORIZON 展 “終わり”から始まる世界を展望する

一夜限りの現代アートの祭典「ニュー・ブランシュ(白夜祭)」, 2021年度のテーマは「HORIZON／展望」です。

京都コンサートホールは、フランスの作曲家オリヴィエ・メシアン(1908-1992)の大傑作《世の終わりのための四重奏曲》をお届けします。

第二次世界大戦の最中、ドイツ軍の捕虜となり、収容所生活を強いられたメシアン。

酷寒と食糧不足に絶望する日々を送っていましたが、その地でヴァイオリン奏者とクラリネット奏者、そしてチェロ奏者と出会います。

この偶然の巡り合わせをきっかけにメシアンは四重奏曲を作曲し、

1941年1月15日、第8A収容所で5,000人の捕虜を前に初演を行いました。

8楽章から構成されるこの四重奏曲は、ヨハネ黙示録の中に描かれる天地創造の場面からインスピレーションを受けて作曲されました。

メシアンは四重奏曲のスコアに「6日間の天地創造の後、7日目の安息日は永遠の中に延長されて拡がり、

永遠の光と不変の平穏な8日目となる」と書き残しています。

つまりこの四重奏曲は、過去と未来の観念の終わり、すなわち永遠の始まりを描いた作品なのです。

“8日目”に永遠の光を見つけたメシアン。コロナ禍のいま、わたしたちはそこに何を見出すのでしょうか。



©nigatuzora

砂原 悟[ピアノ]

Satoshi SUNAHARA, Piano

東京藝術大学付属高校を経て東京藝術大学卒業、同大学院修了、DAAD奨学生としてミュンヘン音楽大学マイスターディプロム取得。1984年日本音楽コンクール入選。1987年ポルト市国際ピアノコンクール(ポルトガル)入賞。1988年クロイツァー賞受賞。現在、国内外で、独奏、室内楽、歌曲伴奏、クラヴィコードなどの演奏活動を行なっている。マイルストーン・レーベルより「クラヴィコードの植物文様」(藤枝守作曲)をリリース。レコード芸術誌で「準特選」を受けた。宮島敏、中山靖子、クラウド・シルデ、小林仁の各氏に師事。京都市立芸術大学教授。



松岡井葉[ヴァイオリン]

Seina MATSUOKA, Violin

5歳よりヴァイオリンを始める。第64回全日本学生音楽コンクール大阪大会高校の部第1位、同全国大会第1位、NHK放送協会賞。第17回松方ホール音楽賞。第23回ABC新人コンサート最優秀音楽賞。第5回京次エンジェルヴァイオリンコンクール第2位。2018年度第28回青山賞新人賞。2019年エリザベート王妃国際コンクールセミファイナリスト。これまでに関西フィル、大阪交響楽団、セントラル愛知交響楽団などと共演。ウィーン楽友協会 Gläserner Saalをはじめ、イタリアやスロヴェニアのフェスティバルコンサートに出演するなど欧州でも活躍の場を広げている。小澤国際室内楽アカデミー・奥志賀に参加。ソロだけでなく室内楽にも積極的に取り組んでいる。2013-2016年度公益財団法人青山財団音楽奨学生。相愛大学音楽学部 特別演奏コース及び同大学音楽専攻科を卒業。在学中に3度の学長賞を受賞。ロータリークラブ RI 2680 地区奨学生。現在はウィーン国立音楽大学に在籍。これまでに小栗まじ絵氏、Michael Frischenschlager氏に師事。



山本 梓[クラリネット]

Azusa YAMAMOTO, Clarinet

11歳でクラリネットを始める。京都市立音楽高等学校(現 京都堀川音楽高等学校)を経て京都市立芸術大学卒業。京都音楽協会賞受賞。卒業後ジュネーブ高等音楽院に留学、マスター課程コンサート科修了。その後フランス、パリのジュヌヴィエ音楽院上級課程を修了。2013年YAMAHA音楽支援制度より留学奨学生に選ばれる。カルリーノ国際クラリネットコンクール第3位(イタリア)、ブローニュー・ピヤンクール演奏コンクール優秀賞(フランス)。関西を中心に主要プロオーケストラへの客演やアンサンブル“はなり”メンバーとして活動を行い、2019年3月にはNHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演し、第1回杉並公会堂ベヒシュタイン室内楽コンクール第3位受賞。また、浜松国際管楽器アカデミーではフランス語と英語の通訳兼アドバイザーを務める。



©木下 茜

佐藤 響[チェロ]

Hibiki SATO, Violoncello

11歳よりチェロを始める。京都市立音楽高校(現 京都市立京都堀川音楽高校)を経て京都市立芸術大学を首席で卒業。卒業にあたり音楽学部賞、並びに京都音楽協会賞受賞。これまでに、雨田一孝、柳田耕治、野村朋亨、上村昇の各氏に師事。2018年まで京都フィルハーモニー室内合奏団チェロ奏者を務め、定期公演ではチャイコフスキー「ロココ風の主題による変奏曲」のソリストとして演奏。2019年より半年間パリにて研鑽を積み帰国。現在は関西を拠点にソリスト、室内楽奏者として活動のほかオーケストラの客演首席奏者なども務める。2020年に能楽師 河村浩太郎氏と共同製作によるクラシックと能楽の創作舞公演「悠久の時を超えて」はコロナ禍における“京都市挑戦サポート交付金”事業に採択され、その模様は、毎日放送「京都知新」NHK「京都スペシャル〜京都発 逆境からの新発想〜」などで放映され好評を博す。京都室内合奏団代表、カルテット澤標メンバー。京都市立京都堀川音楽高校非常勤講師。



京都コンサートホール

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1番地の26
地下鉄烏丸線「北山」駅 ①③出口より南へ徒歩5分

公式HP <https://www.kyotoconcerthall.org>
Facebook 京都コンサートホール Kyoto Concert Hall
Twitter 京都コンサートホール @KCH_Kyoto
YouTube 京都コンサートホール
公式ブログ <https://www.kyotoconcerthall.org/blog>

